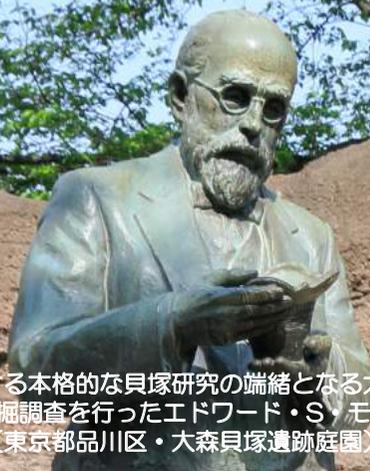




日本第四紀学会シンポジウム

改めて問う “縄文海進” とは何か？

— 第四紀学的視点からの再検討 —



日本における本格的な貝塚研究の端緒となる大森貝塚を
発見し、発掘調査を行ったエドワード・S・モース博士像
(東京都品川区・大森貝塚遺跡庭園)

入場無料・事前登録不要

日時：2018年2月17日（土）13～18時

場所：明治大学 駿河台校舎

アカデミーコモン9階309B教室

主催：日本第四紀学会

共催：産業技術総合研究所 地質調査総合センター
情報・システム研究機構 国立極地研究所

後援：科学研究費助成事業 新学術領域研究「熱-水-物質の巨大
リザーバ：全球環境変動を駆動する南大洋・南極氷床」

世話人：三浦英樹・奥野淳一・藤原 治・松浦秀治

お問い合わせ：日本第四紀学会事務局

(E-mail: daiyonki@shunkosha.com)

プログラム

- ・ 開会の挨拶／齋藤文紀（日本第四紀学会会長・島根大学・産業技術総合研究所）
- ・ 趣旨説明／三浦英樹（国立極地研究所）
- ・ “縄文海進”の研究史と用語・編年に関する諸問題／辻 誠一郎（東京大学）
- ・ “縄文海進”の海域環境と人間活動／一木絵理（上高津貝塚ふるさと歴史の広場）
- ・ “縄文海進”とその前後の北半球氷床・南極氷床の変動史と海水量
／三浦英樹（国立極地研究所）
- ・ 縄文時代以降の海面変化を引き起こす様々な要因
—ハイドロアイソスタシーの役割—／奥野淳一（国立極地研究所）
- ・ 晩氷期以降における落葉広葉樹林から
常緑広葉樹林／スギ林への移行時期の地域的な相違／高原 光（京都府立大）
- ・ 二枚貝の微細成長縞を用いた“縄文海進”期の高精度気候復元
／宮地 鼓（国立アイヌ民族博物館設立準備室）
- ・ “縄文海進”期における黒潮の水温と流路／池原 実（高知大）
- ・ 旧海面高度の復元と地震性地殻変動解読への応用、問題点
／藤原 治（産業技術総合研究所）
- ・ 総合討論／司会：松浦秀治（日本第四紀学会副会長・国立科学博物館）
- ・ 閉会の挨拶／鈴木毅彦（日本第四紀学会副会長・首都大学東京）